

# 全国 検数労連

816号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2  
日港福会館 5 階  
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622  
メール rouren@kensu.jp  
ホームページ http://www.kensu.jp/  
全国 検数労働組合連合  
書記局



## 11月20日(木) 10:00~10:30 検数労連第3回 25冬季一時金交渉 諸物価高騰で組合員の生活はひっ迫! 組合要求に沿った回答で組合員が安心して働ける一時金を!

### 《全日検》

11月20日(木) 第3回検数労連25冬季一時金交渉で、組合は両協会に一時金算式の計算期間にあたる25年度上期収益状況、下期の見通しや取り扱い貨物の動向、25年度冬季一時金支給に対する考え方などの披歴を求め交渉を行いました。

25年度上期は検査業務での落ち込みがあったものの、コンテナ・青果・完成自動車など既存業務での料金収受の取り組みなどによって昨年比微増となっていた。しかしながら、直近10月を見ると検査関係の伸び悩みやコンテナ関係が減少していることから懸念しているところである。現在、日米の関税問題、日中の政治的課題なども懸念しているが、今後引き続きパートナーシップにおける料金収受の取り組みを進めながら収益確保に努めていく。

### 《日検協会》

今賞与の判断材料となる25年度上期事業収益について、主要貨物である自動車関係では、米国の関税措置や欧州経済の影響により取り扱いが低迷したが料金改定等の収益対策による波及効果や、中古車の取り扱いが堅調に推移したことによって、計画比増となった。しかしながら、中国経済の影響による倉庫関係の取り扱いや農産物関係の取り扱いの減少などもあり、いくつかの支部で事業収益・事業利益ともに計画比未達となった。また、直近10月の事業収益においても計画比未達

の支部があり、米国の関税措置や欧州、中国経済の動向、更には中東情勢など収益面への様々な影響を注視する必要があるが、引き続き収益対策を協会一丸となって展開し、収益を確保していくと考えている。

賞与に対する考え方について、物価上昇の影響は今後も続く見通しであることから、従業員の生活不安を少しでも緩和できるような現在鋭意検討しているところである。

回答額の構築についてはこれまで通り、直近半期の計画比・前年比を基本とし、収益対策や総労働時間平準化の進捗状況など、様々な要素を精査しているところである。

### 【組合主張】

組合は、両協会から収支状況や見通し、一時金に対する考え方を聞き、次の通り主張を行い、有額回答指定日に向け組合要求に沿った回答を構築するよう求めました。

諸物価高騰などによって組合員の生活は苦しさが増している。有額回答に向けては組合員一人ひとりが安心して暮らせる一時金を求める。

現在、職場では人員不足の中で付帯作業も強いられながらも頑張っているのが実態である。従業員の労苦に配慮すべく、乗率を重視した支度間格差のない回答を

求める。

昨日の報道にもあったように政府は経済対策の一環として児童手当拡充の方針を発表した。両協会においてもやはり子育て世代(乗率)を重視した対策は必要と考える。また、全日検においてはこれまで乗率の回答が(本給十役付)という回答になっていたが、やはり子育て世代を重視した回答構築(本給十家族手当)(本給十地域年齢手当)に戻すべきである。

日検協会においては『総労働時間を視野に』との主張があったが、時間外の減少によって日々の生活がひっ迫している中で、生活に沿った地域間格差の無い乗率を重視した回答を求める。

### 地方公共交通を守れ! 交運共闘請願行動!

交通運輸に携わる労働組合で結成されている交運共闘は11月6日(木)国交省・厚労省・経産省に対して、規制緩和と反対



### 次回交渉

11月25日(火) 10時~  
第4回25冬季一時金交渉  
有額回答指定日につき  
要注目!

労働条件の改善などを求める請願を行い、検数労連では中執を中心に5名が参加し、全国から集まった署名(国交省・厚労省・経産省合計1811筆)を持って行動に参加しました。

国交省前で開催された集会では『タクシードライバの解雇反対』『地方公共交通を守れ』『トラック労働者の生活を守れ』『荷主は適正な港運料金を支払え』とシユプレヒコールをあげ、国交省に力強くアピールしました。

交運共闘高城議長はあいさつで『我々はこの分野でも国民の生活に必要な不可欠な仕事をしている』と強調。労働条件の改善は待ったなしだとしたうえで、『国交省は必要を要員や予算の確保を早期に計るべきだ』と訴えました。